道徳の時間学習指導案

指導者　Ｔ１　長手　英克

　　　　　　　　　　　　　Ｔ２　浜井　綾子

１　学　年　第４学年　１５名

２　主題名　本当の友達　【Ｂ　友情，信頼】

３　ねらい　なつみに逆上がりを教えようと思うようになったてつおの気持ちを考えることを通して，友達には自分とは違ったよさがあり，それぞれが力を発揮すると一人ではできないこともできるようになることを理解し，困った時には友達と力の貸し借りをしようとする心情を育てる。

４　教材名　「ぼくらだってオーケストラ」（出典：「どうとく４　ゆたかな心で」東京書籍）

５　主題設定の理由

○　本主題は，内容項目のＢ「主として人との関わりに関すること」の１０「友達と互いに理解し，信頼し，助け合うこと。」にあたる。友達とは，単に遊んだり，話したりして一緒に仲良く過ごせるだけでなく，困った時には，お互いに協力し，助け合う存在でもある。このような友達関係は，互いの信頼関係の上で成り立っている。

この時期の児童は，活動範囲が広がることで，集団との関わりも増え，友達関係も広がっている。また，気の合う友達同士で仲間をつくって楽しもうとする傾向が強く，集団での活動がさらに盛んになる。しかし，自分の利害にこだわることで，友達，集団同士のトラブルも少なくない時期である。自分や，集団で楽しむことを中心に考え，友達のことを思って注意したり，友達の忠告を素直に受け入れたりすることは少なく，互いの良さを認め合うほどの信頼関係を築くまでには至らない。

これらのことから，健全な仲間集団を育成していくためには，友達と助け合ってつかんだ成功体験を積み重ね，友達にも自分と同じように得意なところと苦手なところがあることに気付き，お互いのよさを認め，信じ，助け合っていこうとする心情を育てることが大切だと考える。

○　本学級の児童は，男女とも仲良く学級レクをしたり，給食当番など助け合って仕事をしたりする姿がよく見られる。保育所時代よりほぼ同じメンバーで一緒に過ごす仲間として大切にし合っている。児童アンケートからも「困ったときや辛い時に話せる友達がいる。」と回答した児童は86.6％，「友達が上手くいかなかった時，励ます。」では，93.4％の児童が肯定的な回答をしている。しかし，「悲しい時や困った時に，友達から助けてもらってうれしかったことがあるか。」には，66.7％の児童しか経験がないと回答し，さらに，「友達のことを気にするあまり，自分の思いを伝えにくいと感じる。」と回答する児童は68％いる。このことから自分に自信がもてずに，友達のことを気にして素直に思いを伝えておらず，互いに助け合っているという思いをもつには至っていない。

道徳の時間は，自分の考えを深めることができると捉えている児童は多い。自分の考えをワークシートに詳しく書くことができる児童も多い。しかし，自信がなかったり，友達の反応を気にしたりして，自分の考えを伝えることに抵抗感をもっている児童も少なくない。また，場面把握や中心人物の心情に寄り添うことが難しい児童もいる。教材提示や板書の工夫をしたり，友達の発言をつなげたりしながら道徳的価値を深めるように取り組んでいる。

○　本教材は，楽器の演奏が苦手なてつおが，なつみの教えを最初は素直に受け入れなかったが，次第になつみの気持ちや考えが分かるようになり，最後は，自分の得意な逆上がりをなつみに教えたいという思いを抱くようになっていくという読み物教材である。 教えてもらうことに抵抗をもっていたてつおが，なつみの熱心さに気づき，教えを素直に受け入れて，１つ１つ一緒に練習するようになった心情と，演奏できるようになったことを自分のことのように喜んでくれるなつみを見て，なつみのために次は，自分が鉄棒を教えようと考え始めた心情を共感的に捉えさせることができる。そして，友達にはそれぞれ自分とは違ったよさがあること，友達と互いに助け合うことによって自分ひとりではできないこともできるようになることに気付かせることができると考える。

指導に当たっては，導入で，友達がいて良かったと思うことを出し合い，本時の価値に対する方向付けを図る。展開では，教えられることに抵抗を感じていたが，なつみの熱心さに気付き，素直に教えを受け入れて前向きに練習をするようになったてつおの気持ちの変化を捉えさせる。中心発問では，自分のことのように喜んでいるなつみを見て，次は，自分がなつみに逆上がりを教えようと思った時のてつおの気持ちをワークシートに書いて話し合わせ，友達の良さを認め合い，お互いに信じ合うことの大切さを共感できるようにする。そして，互いに助け合った体験を想起させることで，お互いに助け合う友達関係が大切であるという価値を実感させる。

　　　また，TT指導のよさを生かし，場面把握においては範読と教材提示を役割分担しながら状況説明を加え，登場人物の心情について捉えやすくする。さらに，T1，T2の二人で机間指導し，必要に応じて助言する。さらに，二人で児童の意見を聞くことで，適切に切り返したり揺さぶったりして児童がより深く考えられるようにしていく。

【ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業の工夫】

・発問を精選する。

・視覚的情報を効果的に活用する。（場面絵，短冊）

・考えや自己の振り返りを交流し合う場を設ける。

・ワークシートを活用し，自分の考えをまとめることができるようにする。

６　準備物

　　教材，場面絵，短冊，ワークシート

７　学習指導過程

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 段階 | 学習活動 | 主な発問と  予想される児童の心の動き | 指導形態 | | ・指導上の留意点  ○ユニバーサルデザインの視点による支援  ★児童への評価の観点 |
| Ｔ１ | Ｔ２ |
| 導  入 | １　友達の良さは，どのようなことがあるかについて考える。 | ○友だちがいて，よかったなと思ったことはありますか。  ・いっしょに遊んで楽しかった時。  ・一輪車の演技など協力してできた時。  ・困っているときに助けてもらった時。 | 発問  児童  観察 | 板書  児童  観察 | ・体験を発表することで，ねらいとする価値への向づけを図る。 |
| 展  開 | ２　教材「ぼくらだってオーケストラ」の範読を聞いて話し合う。 | ○なつみの方をちらっと見たけど，知らんぷりをしたてつおは，どんなことを考えていたのでしょうか。  ・逆上がりはできないくせに。  ・聞いたぐらいで出来るわけない。  ・自分だけでも，できるようになる。  ○少しもいやがらず，教えてくれるなつみと練習しながらてつおは，どのようなことを考えたでしょうか。  ・聞くとできるんだ。  ・なつみの言うとおりにすると，ぼくもうまくふけるようになりそうだ。  ・嫌な態度なのに，教えてくれてありがとう。  ◎れんごう音楽会が終わったら，なつみに逆上がりを教えてあげようと思ったてつおは，どんなことを考えていたのでしょうか。  ・なつみはリコーダーがふけなくて困っていたぼくのこと思ってくれていたんだ。  ・なつみのおかげで苦手だったリコーダーがふけるようになった。今度はぼくが，お礼になつみが苦手な逆上がりを教えてあげたい。  ・今まで気がつかなかったけど，なつみにはいいところがある。  ↓（補助発問や切り返しによる価値の深まり）  ・自分だけでできない事も友達の助けがあればできる。  ・自分が得意なことで，困っている友達の役に立つことができる。  ・友達や自分には，それぞれよいところがある。  ・友達や自分の力を信じる。  ・自分から困っている友達に声をかけるのが助け合うことだ。  ○みんなもこのように友達のことを信じて，お互いに助け合ったことがありますか。  ・一輪車で，一人ではできなかったけど，どうすれば怖くないかを聞いて最後まで信じて一緒に練習した。 | 範読  発問  児童観察  発問  児童観察  板書  補助  児童観察 | 資料提示  板書  児童観察  板書  児童観察  発問  児童観察 | ○場面絵や短冊を提示することで，教材の内容を把握しやすくする。  ・教えてもらうことに抵抗感をもち，なつみの言葉を素直に聞けないてつおの気持ちに共感させる。  ・友達のためを思って教えるなつみの熱心さに気付いたてつおの気持ちの変化を捉えさせる。  ○てつおの気持ちをワークシートに書かせ，自分の考えをまとめることができるようにする。  ★友達には自分とは違ったよさがあり，それぞれが力を発揮すると一人ではできないこともできるようになることを考えることができたか。（ワークシート，発言）  ・「初めのころのてつおとは何が変わったのか。」「なぜ逆上がりなのか。」と補助発問をし，「助け合うってどういうことか。」を考えさせる。  ・中心発問での思考の深まりの中で，ねらいとする道徳的価値が自分の中にもあることに気付かせる。  ・その時の気持ちも聞き，友達について深める。 |
| 終  末 | ３　教師が説話をする。 | ○友達がいて良かった話を聞く。  ・熱心に縄跳びを教えてくれた友達を最後まで信じて，全くできなかった縄跳びができた。 | 説話 | 児童観察 | ・友達とは，相手を信頼し,互いに助け合うことができる関係であることを話す。 |

８　板書計画

友達と助け合うとは

♡自分から困っている友達に声をかける

♡友達の力を最後まで信じる

人とかかわって

**ぼくらだってオーケストラ**



自分のことのように，よろこんで，

少しもいやがらず，ねっしんに教えます

「右手の小指，あなが半分空いてる。」

楽ふにドレミ，ふってあげようか？



友達

れんごう音楽会が終わったら，なつみに逆上がりを教えてあげようと思ったてつおは，どんなことを考えていたのでしょうか**。**



・いっしょに遊んで楽しい。

・協力して成功

・困っているときに助ける

・自分だけでできない事も友達の助けがあればできる。

・自分の得意を生かす

・なつみの言うとおりだ。

・うまい人の言うことは，ちゃんときくとできるものなんだな。

・嫌な態度なのに，教えてくれてありがとう。・

・えらそうに，生意気だ。

・逆上がりはできないくせに。

・聞いたぐらいで出来るわけない。

・自分だけでも，できるようになる。

・友達のおかげ

・お礼に逆上がりを教えてあげたい。

・困っている時　苦手なことを助ける。

・友達には自分とは違ういいところがある。

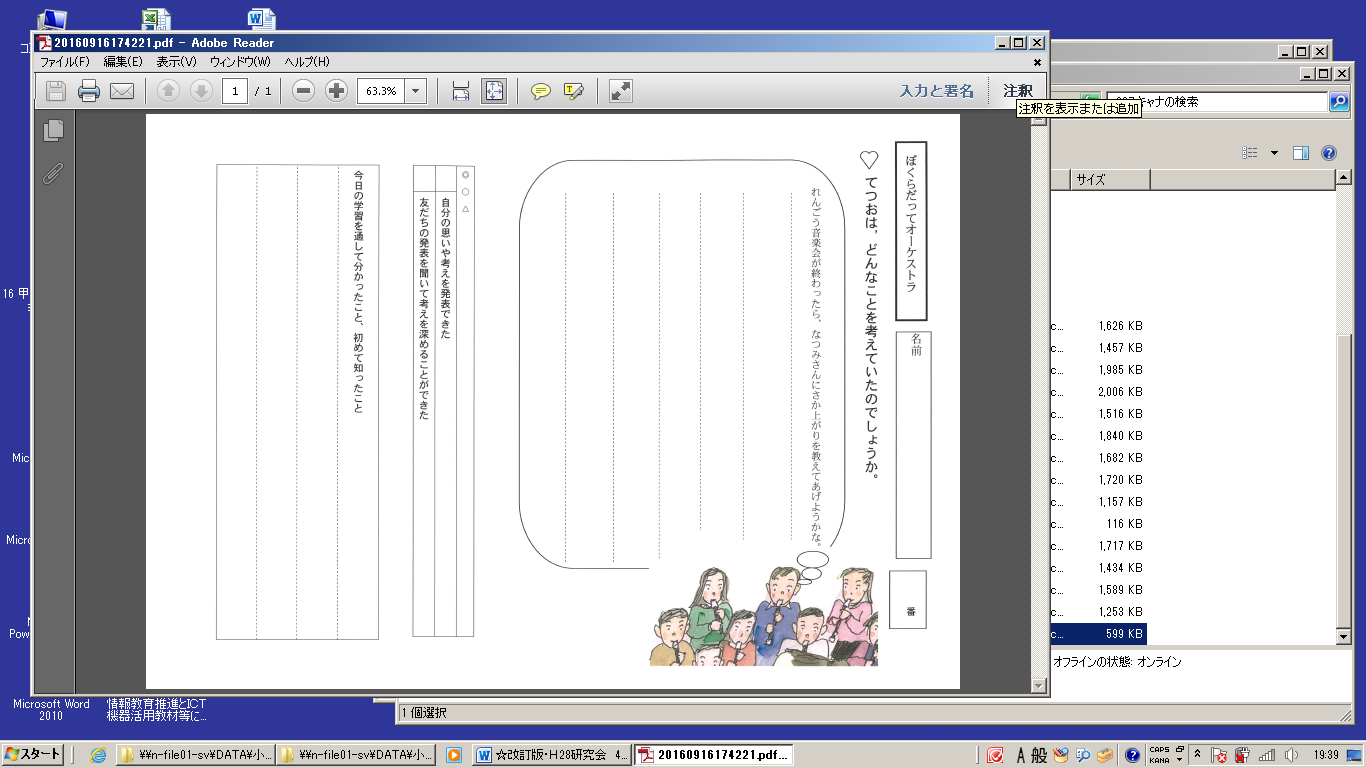
あっ！ふけた。できた，ぼく。

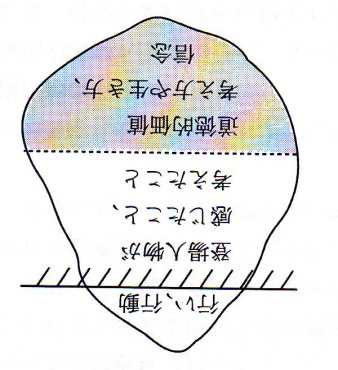
自分の目で，指の位置をしっかりたしかめて

教わったことを，ひとつひとつ

なつみが言ったとおり，あなをちゃんとおさえていません。

９　ワークシート



【道徳的価値の自覚を深める指導になるために】

―考えさせる道徳・議論する道徳―

|  |  |
| --- | --- |
| 行い  行動 | ・れんごう音楽会が終わったら，なつみさんにさか上がりを教えてあげようかな。 |
| 登場人物が  感じたこと  考えたこと | ・なつみは，リコーダーがふけなくて困っていたぼくのことを思ってくれていたんだ。  ・今まで気がつかなかったけど，なつみには自分とは違うよいところがある。  ・苦手なリコーダーがふけるようになったから，今度はお礼に逆上がりを教えてあげるよ。 |
| 道徳的価値  考え方や生き方  信念 | ・自分だけでは難しいことも，友達とならできる。  ・友達や自分には，それぞれよいところがある。  ・自分が得意なことで，困っている友達を助けてあげることができる。  ・友達や自分の力を信じて，自分から困っている友達に声をかけるのが助け合うことだ。 |

第４学年　　**ピーナッツプログラム**　《２学期》

＜プログラム名＞友達のよいところを認め合い，お互いに助け合おう！

○自分でやろうと決めた目標に向かって，強い意志をもち，粘り強くやり抜く子供

◎友達と互いに理解し，信頼し，助け合う子供

○我が国や郷土の文化と伝統を大切にし，国や郷土を愛する心をもつ子供

ねらい

【中学年】

道徳の時間

児童の意識

体験活動等

（行事・総合的な学習の時間・生活科・特別活動・各教科・日常の指導）

《学校行事》「校内水泳記録会」

自己記録に挑戦する友達を励まし合い，お互いの練習成果を認め合う。

♡困った時に，友達から声をかけてもらうのは，うれしいな。でも，自分から友達を助けることはあまりないな。得意なことも少ないし。

《帰りの会》「良いとこ見つけ」

友達から自分の良いところを伝えてもらい，互いの良さを認め合う。

**「心と心のあく手」**

Ｂ　思いやり，親切

相手の立場や気持ちを理解して，進んで親切にしようとする態度を育てる。

《学級会活動》「学習発表会のテーマを考えよう」

学習発表会を成功させるために，大切なことについて話し合う。

**「ぼくらだってオーケストラ」**

Ｂ　友情，信頼

なつみに逆上がりを教えようと思うようになった気持ちを考えることを通して，友達には自分とは違ったよさがあり，それぞれが力を発揮すると一人ではできないこともできるようになることを理解し，困った時には友達と力のかしかりをしようとする心情を育てる。

《総合的な学習の時間・休憩時間》

「学習発表会の練習」

自分の課題を乗り越えたり，自分だけでは難しいことは，互いに助け合ったりしながら学習発表会の練習をする。

♡自分だけでは難しいことも，友達と助け合えばできたよ。次は，自分から困っている友達に声をかけ，助けてあげるよ。

《学校行事》「学習発表会」

学習発表会の目標やお互いに助け合って達成したことを認め合う。

＜めざす子どもの姿＞

自分と友達のよさを認め合い，お互いに助け合おうとする子供